

令和3年度 瑞穂台小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
人間尊重の教育を基盤として，よい校風の樹立と21世紀を担う人づくりを目指し，社会の変化に主体的に対応できる健康で心豊かなたくましい人間の育成を図る。
- (2) 具体目標
- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・ 明るく 健康な子 | ・ よく考え 自ら学ぶ子 |
| ・ 心豊かで，思いやりのある子 | ・ きまりを守り 進んで働く子 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

瑞穂台小の合い言葉「よく学び 心のふるさと みずほだい」を児童・教職員・保護者・地域の共通の目標に設定し，「学び」と「ふるさとづくり」を全教育活動の柱とすることで，知・徳・体バランスのとれた子どもの育成をめざす。

【目指す学校像】 ○ 学び（個の成長）のある学校 ○ 居場所（認められる場所）のある学校

【目指す教師像】 ○ 授業改善に取り組む教師 ○ 目的意識のある教師

○ 危機管理意識を備えた教師 ○ 立場理解に努める教師

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

—学びと居場所のある響き合う学校づくり—

児童の「学び（個の成長）」と「居場所（認められる場所）」を保障するため，児童・教員・保護者・地域それぞれが互いに理解（どうして），共感（なるほど），創造（それじゃ）を意識しながら響き合っている学校を目指していく。

○[瑞穂野地域学校園教育ビジョン]

9年間の連続した学びの中で，

生きる力（確かな学力，健やかな体，豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，学校教育法施行規則，小学校学習指導要領に示された，教育の目標や内容，本県「幼稚園・小学校・中学校 指導の指針」，本市「うつのみやいきいき学校プラン・学校教育スタンダード」，宇都宮市立学校の管理運営に関する規則第7条に基づき，本校の実態・地域の実情を踏まえ，教職員，児童，保護者，地域の知恵の総合として教育課程を編成する。
- (2) 教育活動全体を通じて，児童の発達段階や各教科等の特質に応じ，豊かな心とよりよく問題を解決する資質や能力を持ち，たくましく生きる人間の育成を目指し，基礎的・基本的な内容を重視しながら，創意工夫を生かした特色ある学校づくりを目指した教育課程の編成を図る。
- (3) 各教科，特別活動並びに総合的な学習の時間，道徳を相互に関連付け，小中一貫教育の視点を生かし，教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるように教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

① 学びのある学校

ア 基本的な学習態度・習慣の形成

・ 学習のきまり，ノート指導，話し方・聞き方の指導，家庭学習の習慣化 等

イ ○自分の学びが意識できる学習過程の工夫（宇都宮モデルの活用）

・ ねらいが明確な授業，振り返り，言語活動の重視 等

ウ 基礎・基本の定着と思考力，活用力育成のための授業の工夫・改善

・ 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実践等による授業力向上

○「瑞穂野漢字ミニマム」の活用による基礎的な言語能力の育成

○読書活動などを通じた，読解力・語彙力の向上

② 居場所のある学校

ア 心を育む場の推進

・ 相手の立場や気持ちを考えて行動する実践力の育成

「心を育む時間」，「みずだい3つの約束（あいさつ・親切・言葉遣い）」等

○道徳科の授業改善及び推進（実践的態度の育成・小中が連携して行う授業づくり） ・ いじめゼロに向けた取組の推進（児童指導たより、アンケートの実施 等） イ ふるさとづくりの推進・発展 ・ なかよし瑞穂野の主体的・効果的展開の工夫 ○宇都宮学や地域学習、地域行事への積極的参加による『『わがまち』意識』の涵養 ウ 特別活動の充実・改善 ・ 児童の主体性を育む学校行事、児童会活動、委員会活動等の改善・充実 ③ 教職員の働き方に関する視点 ア 勤務時間を意識した校務の取組や計画的な年休取得 イ 教職員の健康管理（リフレッシュデーの完全実施） ウ 日課表の見直し並びに会議や打合せの効率化 (2) 学習指導 ・ 各教科の基礎・基本の定着 ・ 思考力・活用力の育成（主体的・対話的で深い学びの手立てを取り入れた授業改善） (3) 児童生徒指導 ・ 時と場に応じたあいさつや、相手の気持ちを考えた言葉づかいのできる児童の育成 (4) 健康（体力・保健・食・安全） ・ 自らの健康を考え、目標に向かって継続して挑戦していく児童の育成 ～教科体育の充実と各種運動・遊びの日常化をめざして～

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①ペア学習やグループ学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の研究を進め、既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりする。 ②「自分の考えを相手にわかりやすく伝える話し方」に課題が見られる。発達段階に応じて、正しく効果的な話し方を指導し、話し合って友達と学び合うことの良さ・楽しさを味わえるようにする。	A B	【達成状況】 A1については、保護者の肯定的回答が91.5%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①自分の考えを書く力が高まってきており、意欲的に取り組んでいる。ペア学習やグループ学習を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の研究を進め、既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりする。 ②「自分の考えを相手にわかりやすく伝える話し方」が少しずつ身についてきているので、相手意識をもち、目的意識をもって対話できるように発達段階に応じた指導を継続的に行う。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「心を育む時間」を朝の活動や学級活動、道徳の時間に取り入れ、相手の気持ちを考えた言動ができるよう児童の意識の向上に努める。 ②「みず台3つの約束」を柱として児童	A B	【達成状況】 A2については、保護者の肯定的回答が90.0%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①道徳の時間を中心に、学級活動などでも心を育む場を意図的に設け、相手の気持ちを考えた言動ができるよう、児童の実態に応じた指導に努める。 ②「みず台3つの約束」を朝会で扱い、児童

目 指 す 児 童 の 姿		指導を行い、児童の意識化を図る。 ③人権週間や教育相談の充実を図る。	B	の意識化を図る。 ③人権週間や教育相談の充実を図る。
		④学年で連携を図ったり、職員会議で問題行動のある児童の情報を職員で共有したりしながら早期発見・対応に努める。	B	④問題行動の早期発見・対応に努めるために、職員間の連携を密にし、組織力を生かして取り組む。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。			【達成状況】 A3 においては、児童の肯定的回答が 86.7% で目標を達成することができた。
	【数値指標】 「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「みず台3つの約束」である「元気なあいさつ」「だれにも親切」「正しい言葉づかい」を児童指導の柱として、常時生活の中で児童に意識させながら引き続き力を入れて指導していく。また、集会時に全校で唱和することで生活目標やあいさつ運動等と関連づけながら意識化を図っていく。 ②授業や生活のきまりについて、「よい子の一日」や「よい子の学習のきまり」を活用して指導していく。	B	【次年度の方針】 ①「みず台3つの約束」を児童指導の柱として学年の実態に応じた生活目標を設定し、日常生活の中で児童に意識させながら引き続き指導していく。
目 指 す 児 童 の 姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。			【達成状況】 A4 については、保護者の肯定的回答が 77.5% で目標を達成することができた。
	【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	①教職員が積極的にあいさつを行い、正しい言葉づかいを心がけるとともに、日常の指導の中で「みず台3つの約束」の「元気なあいさつ」を掲げながら児童の意識化を図っていく。 ②給食時の放送で周知したり、当番児童はたすきを着用したりして、さらに力を入れて定期的に児童会によるあいさつ運動を行う。 ③あいさつだけでなく、礼儀や目上の人に対する言葉づかいを学校で指導するとともに、懇談会や学年だよりの「心のふるさと」にも盛り込みながら保護者にも呼びかけ、家庭での指導をお願いしていく。	B	【次年度の方針】 ①保護者、教職員、児童の肯定的回答は昨年度より上がっている。今後も教職員が率先してあいさつを行うとともに、日常の指導の中で「みず台3つの約束」の「だれにもあいさつ」を掲げながら児童の意識化を図っていく。 ②児童会を中心に放送で呼びかけたり、当番児童はたすきを着用してあいさつ運動に参加したりして、今後もさらに力を入れてあいさつ運動を行っていく。また、運営委員会児童による業間や昼休みのあいさつ巡回も継続して行っていく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。			【達成状況】 児童の肯定的回答が 90.1% で目標を達成することができた。
	【数値指標】	①学校教育目標や学年目標をふまえ、学期ごとに個人目標を掲げさせ、それを達	B	【次年度の方針】 ①学校教育目標や学年目標をふまえ、学期や行事ごとに個人目標を掲げさせ、それを

目 指 す 児 童 の 姿	「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	成するために頑張る意欲を継続させるとともに、帰りの会や学級活動で振り返りを行う。 ②各種検定表、がんばりカードをもとに自分の目標を設定し、意欲を高め、継続的实践しようとする態度を育む。 ③「宮っ子心の教育表彰」や「学校長表彰」を活用し、児童の良さや努力等を認め励ます教育を推進する。	達成するために自己評価を進めるとともに、その都度振り返る機会を設ける。 B ②各種検定表をもとに補助具等を活用するとともに、長期休暇中に課題として取り組ませるなど、学校と家庭で連携しながら児童の意欲を高めるように支援する。 B ③「宮っ子心の教育表彰」や「学校長表彰」を活用し、児童の良さや努力等を認め励ます教育を推進する。
	A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①健康診断の結果のお知らせや小中一貫の健康票の活用、養護教諭の保健指導を通して、自分の健康に関心がもてるようにする。 ②災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。 ③児童数の増加により、遊具の数や外遊びのスペースが減少したため、教室等でもできる運動プログラムを検討する。 (朝の会の時間を利用した1分間体操、運動委員会による業間や昼休みに外遊びを奨励する呼びかけ等)	【達成状況】 児童の肯定的回答が94.9%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 B ①健康診断の結果のお知らせや小中一貫の健康票の活用、養護教諭の保健指導を通して、自分の健康に関心がもてるようにする。 B ②災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。 B ③外遊びを推奨させるとともに、「校庭で遊ぶときのきまり」を周知させ、安全に気を付けて生活させる。
	A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学級活動や帰りの会などで、自己の成長を振り返る場を設定する。 ②体験的な学習の場を設定し、協働する力を育む教育活動を推進する。 ③地域や各種団体と連携した取組について学校だよりや学年だより等で、児童や保護者に情報を提供し、地域の行事などに積極的に参加できるようにする。	【達成状況】 A7については、児童の肯定的回答が90.1%で目標を達成できた。保護者の肯定的回答が78.5%であったが、昨年度より増えた。 【次年度の方針】 B ①自己の成長を実感できるように、振り返りの場を大切に授業を展開したり、教師が児童の成長を認め励ます機会を設定したりしていく。 B ②年間活動計画の中に体験的な学習の場を設定し、協働する力を育む教育活動を推進する。 C ③地域や各種団体と連携した取組の有益性を、児童や保護者に効果的に情報提供することを通して地域の行事に関心を持てるようにする。
	A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケ	①外国語科や外国語活動の時間において、教員が英語を使って児童とコミュニケーションを取るとともに、ゲームなどを通してALTと積極的にコミュニケ	【達成状況】 A8については、児童の肯定的回答が88.5%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 B ①外国語活動の時間、教員が英語を使って児童とコミュニケーションを取るとともに、ゲームなどを通してALTと積極的にコミュニケーションを図る授業を展開して

ーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	ーションを図る授業を展開する。 ②効果的な言語活動を設定し、英語によるやり取りを中心とした授業を展開する。 ③ALTとの交流給食や昼休みの時間等一緒に遊ぶことで、生きた英語に触れる機会の充実を図る。	B ②英語専科教諭を中心に、児童が楽しく学習できるよう、バリエーション豊富なゲームを考えるようにする。また、児童が英語を数多く話すような場面を設定することで、英語に触れる機会を多くしていく。 C ③状況を見ながらALTとの交流給食や昼休み、清掃の時間等一緒に遊ぶことで、触れ合う機会を多くもてるようにする。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①生活科、総合的な学習の時間、社会科などで、瑞穂野地区や宇都宮市の施設、歴史、食や伝統文化・昔遊びなどに触れた学習を展開する。 ②地域の伝統文化（瑞台まつり、どんどん焼き、蛍のタベなど）を大切に継承していく心を育む。（各家庭単位での参加を呼びかける） ③宇都宮学をふまえて、出前授業や校外学習の活動計画を児童の実態に合わせて活動計画を見直した。地域の人材や文化財等を生かした授業を展開することで、郷土に対する親しみや愛情を育む。	【達成状況】 A9については、児童の肯定的回答が87.0%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 A ①教科等の学習の内容と関連させ、瑞穂野地区や宇都宮市の施設、歴史、食や伝統文化などに触れる機会を増やし、社会生活を営む上での利便性や先人の思いと現代の暮らしの連続性・共通性等の良さを実感できるようにする。 B ②進んで地域の行事に参加するよう勧めたり、地域の伝統行事（瑞台まつり、どんどん焼き、蛍のタベなど）を紹介し、大切に継承していく心を育む。 B ③百人一首や他教科の学習に宇都宮学の学習を適宜取り入れられるように工夫する。掲示物などで視覚的にとらえられる場を設ける
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①生活科・総合的な学習の時間の課題や、社会科の歴史等について、インターネットや図書資料をもとに調べ学習を進めていく。ICTを活用するための基礎となるような学習を中学年で実施し、高学年からは活用できるようにする。 ②生活科や理科の学習等で、デジタルカメラで撮った写真や実物投影機、一人一台PCを活用し、観察や発表に生かす。 ③課題発見・解決のために必要な資料等を市立図書館や地域学校園内の学校から借りるなど連携を図る。	【達成状況】 A10については、児童の肯定的回答が89.6%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 B ①積極的に端末を活用した授業を展開していくとともに、各メディアの特性を理解したうえで、調べ学習等での図書資料活用も行う。 A ②端末で撮った写真や動画等を活用し、学習に生かしていく。 C
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、	①生活科や総合的な学習の時間などにおいて、高齢者と交流する活動の場を設	【達成状況】 A11については、保護者の肯定的回答が90.0%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 C ①生活科や総合的な学習の時間などにおいて、高齢者と交流する活動の場を設定する。

	思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	定する。昔遊びや昔体験などの活動を通して、地域住民と交流を深め、高齢者に対する感謝の気持ちやいたわりの心を育てる。 ②運動会へ的高齢者を招待し、全校児童で感謝の気持ちを作文で表現できるようにする。 ③敬老会に参加して活動することで、相手意識や目的意識をもって高齢者と接することができるようにする。	昔遊びや昔体験などの活動を通して、地域住民と交流を深め、高齢者に対する感謝の気持ちやいたわりの心を育てる。 ②高齢者へ感謝の気持ちを作文で表現できるようにする。 相手意識や目的意識をもって高齢者と接することができるようにする。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学校農園や花壇の整備、田植えや小動物の世話などの体験活動を通して、自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さを学ばせる。 ②総合的な学習の時間や社会科等において、環境問題や国際理解、防災や食をテーマとして、地球や世界の学習素材を生かした学習を実践する。	【達成状況】 A12については、児童の肯定的回答が82.1%で目標を達成することができた。教職員の肯定的回答は54.8%で課題が見られる。 【次年度の方針】 ①学校農園や花壇の整備、田植えや金魚・蛭の飼育などの体験活動を通して、自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さを学ばせる。 ②社会科や家庭科、総合的な学習の時間を活用し、環境問題や国際理解、防災や食をテーマとした中で、具体的なSDGsの視点を意識した学習を実践する。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①校内支援委員会を定期的に実施し、特別な支援を必要とする児童に関する情報交換や共通理解を図り、組織的な支援を行う。 ②校内支援委員会及びケース会議において、かがやきルームの指導が適切であるか検討し、具体化された個別の指導計画のもと指導の充実を図る。 ③「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」を活用し適切な支援にあたる。	【達成状況】 A13については、教職員の肯定的回答が100%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①校内支援委員会の定期的な開催と、職員会議後の情報交換を実施することで、特別な支援を必要とする児童に関する情報を共有し、今後も組織的に対応していく。 ②校内支援委員会及びケース会議において、かがやきルームの指導が適切であるか検討し、具体化された個別の指導計画のもと指導の充実を図る。 ③「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」を活用し適切な支援にあたる。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①定期的にアンケートを実施したり児童の言動を観察したりすることでいじめの早期発見に努める。 ②いじめ振り返り心のチェックシートを活用し、いじめは許されない行為であることを指導する。	【達成状況】 A14については、児童の肯定的回答が97.0%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①いじめゼロ月間に「いじめ振り返り心のチェックシート5」や年5回の「いじめゼロアンケート」を実施する。また、年2回各学級で教育相談を実施することでいじめの未然防止と早期発見に努める。 ②いじめ振り返り心のチェックシートを活用し、いじめは許されない行為であることを指導する。

		③HPだけでなく、児童指導だよりの発行回数を増やして、いじめゼロ強調月間や人権週間などの活動について保護者へ積極的に発信していく。また、学年だよりに「心のふるさと」コーナーを設け、各学年の取り組みや活動を知らせていく。	B	③HPや児童指導だよりだけでなく、学級懇談会や学校だよりでも学校のいじめ対策方針について保護者へ積極的に発信していくとともに、いじめゼロ集会や人権週間を活用し、児童にも積極的に発信していく。学年だよりに「心のふるさと」コーナーを設け、各学年の取り組みや活動を知らせていくとともに、道徳や学級活動の時間にもいじめについて取り上げ指導していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。			
	【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①SC と連携をとったり教育相談を充実させたりして児童一人一人に寄り添い、居がい感のある学級経営を実践する。 ②道徳や学級活動の時間を活用して、クラスの友達との交流を深め、互いの良さに気付かせるとともに、思いやりの心を育む。 ③欠席した際には、1日の出来事や学習内容を手紙にして届けるとともに、電話で連絡をしたり、家庭訪問をして様子を見たりする。	B B B	【達成状況】 A15については、児童の肯定的回答が94.6%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①関係職員やSCと共通理解を図り、連携をとって組織的に対応できるようにする。さらに、教育相談を充実させ、児童一人一人に寄り添い、居がい感のある学級経営を実践する。 ②道徳や学級活動の時間を活用して、クラスの友達との交流を深め、互いの良さに気付かせるとともに、思いやりの心を育む。 ③欠席した際には、1日の出来事や学習内容を手紙にして届けるとともに、電話で連絡をしたり、家庭訪問をしたりして児童の様子を確認する。
目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。			
	【数値指標】 「教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①外国人児童の編入の面接時、日本語の習得状況により、編入前にはばたき教室への通級を勧めるとともに、母語で日本語を指導する母語指導者や日本語による日本語指導のボランティアを派遣するなどして支援にあたる。 ②保護者への通訳や保護者への通知文の翻訳を市教委へ依頼する。	B C	【達成状況】 A16については、教職員の肯定的回答が100%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①外国人児童の編入の面接時、日本語の習得状況により、編入前にはばたき教室への通級を勧めるとともに、母国語で日本語を指導する母国語指導者や日本語による日本語指導のボランティアを依頼するなどして支援にあたる。 ②保護者への通訳や保護者への通知文の翻訳を市教委へ依頼する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。			
	【数値指標】 「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①個々の良さを認め、児童一人一人が居がいのある教室を目指し、学級経営をさらに充実させる。 ②楽しく分かる授業の工夫をしたり、さまざまな教科で話し合い活動を重視したりする中で、児童一人一人が居場所のある学級・学校づくりをさらに目指す。 ③なかよし瑞穂野などの異年齢集団活	B A C	【達成状況】 A17については、児童の肯定的回答が91.1%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①個々の良さを認めるとともに自ら思考・判断できる場を保障することで、児童一人一人が居がいのある教室を目指し、学級経営をさらに充実させる。 ②楽しく分かる授業の工夫をしたり、さまざまな教科で話し合い活動を重視したりする中で、児童一人一人が居場所のある学級・学校づくりをさらに目指す。 ③なかよし瑞穂野などの異年齢集団活動を

目 指 す 学 校 の 姿		動を進め、また、児童会活動を充実させる。児童一人一人が主体的に活動し、自分の良さが発揮できるようにする。		進め、また、児童会活動を充実させる。児童一人一人の主体的な活動を促し、自分の良さが発揮できるようにする。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。			
	【数値指標】 「教職員は、児童生徒一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図り、児童が授業での学びを実感、自覚できるようにする。 ②ノート作りにおいては、教科間、学年・学級・コース間で記述内容に大きな差が生じないように共通理解を図りながら進めるようにし、分かったことをしっかりとまとめることができるように指導する。 ③学習で使う言葉・用語について、教科の内容に即して児童が正しく理解して活用できるように指導の徹底を図る。 ④学力向上プロジェクトによる「家庭学習のすすめ」を示し、保護者の理解を得ながら家庭学習を通して学習内容の確実な定着を図れるようにする。また、「自主学習メニュー」を活用し、より自主的な学習を進められるようにする。 ⑤習熟度別学習においては、児童が習熟度別コースの内容をよく理解して自分に合った選択をし、効果的な学習ができるように適切な支援を行う。また、学習内容によっては学習形態を工夫して、より適切な支援を行う。 ⑥学力向上に向けた取組について HP や懇談などで保護者にも発信しながら、啓発を行う。	B A B B B B	【達成状況】 A18については、保護者の肯定的回答が84.8%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図り、児童が授業で学びを実感、自覚できるようにする。 ②ノート作りにおいては、学年等で共通理解を図り、大きな差が生じないよう運用をするとともに、分かったことをまとめるだけでなく、思考表現の場としても活用できるようにする。 ③学習で使う言葉・用語について、教科の内容に即して児童が正しく覚えて活用できるように指導の徹底を図る。 ④学力向上プロジェクトによる「家庭学習のすすめ」を示し、保護者の理解を得ながら家庭学習を通して学習内容の確実な定着を図れるようにする。また、「自主学習メニュー」を活用し、より自主的な学習を進められるようにする。 ⑤習熟度別学習では、基礎・基本の定着をさせるだけでなく、児童がより学力を活用し伸びるような授業の工夫をしていく。 ⑥学力向上に向けた取組について、HP や懇談などで保護者にも発信しながら啓発を行う。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。	①学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図る。 ②学校図書館司書、栄養教諭、特別支援学級非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー等と連携した取組の充実を図る。 ③インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用し、 <u>地域学校園の事務職員が連携して学校事務を共同実施し、業務の負担軽減に努める。</u>	B B B	【達成状況】 A19 については、教職員の肯定的回答が90.3%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図る。 ②学校図書館司書、学校栄養士、特別支援学級非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー等と連携した取組の充実を図る。 ③インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用し、 <u>地域学校園の事務職員が連携して学校事務を共同実施し、業務の負担軽減に努める。</u>
	A20 学校は、教職員の勤			【達成状況】

目 指 す 学 校 の 姿	務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①校務分掌の偏りがないようにするとともに、内容を精選し見直しを図っていく。 ②学校行事ごとの反省をもとに、次年度効率的に実施できるよう、改善を図っていく。 ③職員会議や打ち合わせの際には、データで周知し、ペーパーレスを目指すことで、負担の軽減を図る。 ④毎月、リフレッシュデーを設定し意識して勤務するようにする。	A20 については、教職員の肯定的回答が 90.3%で目標を達成することができた。昨年度より 11.9 ポイント上昇した。 【次年度の方針】 B ①校務分掌の偏りがないようにするとともに、内容を精選し見直しを図る。 B ②学校行事ごとの反省をもとに、次年度効率的に実施できるよう、改善を図る。 B ③職員会議や打ち合わせの際には、終了の時間を設定したうえで実施する。また、データで周知しペーパーレスを目指すことで、負担の軽減を図る。説明や検討の必要のない議題は、掲示板を活用する。 A ④毎月、リフレッシュデーを設定する。その日の放課後は、会議や研修の予定を入れず、意識して勤務するようにする。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①児童生徒指導強化連絡会や小小連携、小中連携学校行事などを大切にし、児童の育成を図る。 ②小中乗り入れ授業の充実を図る。 ③学校間の相互支援による学校事務の効率化を図る。	【達成状況】 A21 については、保護者の肯定的回答が 71.0%で目標を達成することができなかった。教職員や児童の回答は、昨年度に比べて大きく上昇している。 【次年度の方針】 B ①<u>児童生徒指導強化連絡会や小中連携学校行事などを大切にし、児童の育成を図る。</u> B ②<u>学校間の相互支援による学校事務の効率化を図る。</u> 学校便りをはじめ各種のお便りやホームページで、活動を紹介し、理解を深める。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①社会や生活科、総合学習（蛭の飼育・地域学習）、算数（そろばん）など様々な学習に地域ボランティアに関わっていただき、開かれた学校、地域の学校を目指す。 ②学校教育課の「学習への協力を得ている企業・官公庁等」のリストや文化課の出前授業リストを活用し、学年に応じた特色ある教育活動を展開する。	【達成状況】 A22 については、保護者の肯定的回答が 83.5%で、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 A ①直接学校へ来るスタイル以外の支援の形を検討していきながら、可能な範囲で地域ボランティアを活用していく。 B ②出前授業リストなどを活用し、学年に応じた特色ある教育活動を展開していく。 B ③学校での取組を学校のホームページや学年だより等で、保護者にも発信しながら啓発を行う。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育		【達成状況】 A23 については、保護者の肯定的回答が 83.5%で、目標を達成することができた。

	成に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①保護者による登校指導、地域ボランティアによる下校指導と連携し保護者・地域と協力しながら児童の安全確保に努める。 ②授業参観やフリー参観などによる学校公開の推進を行う。 習熟度別やティームティーチングの授業・道徳等の授業公開。 ③感染対策を講じつつ地域ボランティアを積極的に活用し、地域の歴史や自然、産業等について話をしてもらう。 ④蚩水会による、ホタルの飼育の仕方や上陸セットの作り方の指導等を通して、「心のふるさと みずほだい」をテーマに郷土愛を育てる。	C B B	【次年度の方針】 ①今年度同様、保護者による登校指導、地域ボランティアや教職員による下校指導を充実させる。また、地域や保護者の意見に耳を傾け、できるかぎりの安全確保に努める。 ②可能な限り学校行事・授業参観・オープンスクール・土曜授業等で児童の多様な教育活動の様子がみられるように学校を公開できるよう工夫していく。 ③可能な限り地域ボランティアを積極的に活用し、地域の歴史や自然、産業等について話をしてもらうことで、郷土愛を育てていく。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①学校施設・設備について、事故の原因になる危険箇所を未然に発見し、それらを速やかに除去し、児童が学校生活を安全に送れるようにする。 ②毎月1回、全職員が点検担当場所を点検し、修理改善等が必要な場合には、早急に処置する。 ③児童が安全に学校生活を送れるようにする、点検日以外にも日常の安全点検を心がける。	B B B	【達成状況】 A24 については保護者の肯定的回答が89.0%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①学校施設・設備について、事故の原因になる危険箇所を未然に発見し、それらを速やかに除去し、児童が学校生活を安全に送れるようにする。 ②毎月1回、全職員が点検担当場所を点検し、修理改善等が必要な場合には、早急に処置する。 ③児童が安全に学校生活を送れるように、点検日以外にも日常の安全点検を心がける。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①各教科において、ICT機器を効果的に活用して、学習の理解を深めるために学校図書館司書と連携し、学習に必要な図書を充実させる。 ②課題の発見や解決のために必要な資料等を市立図書館や<u>地域学校園内の学校から借りる</u>など連携を図る。 ③ICT機器や学習に必要なスペースや備品の整備を行う。	A B A	【達成状況】 A25については、児童の肯定的回答が89.6%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 ①各教科等において、端末を効果的に活用していくとともに学校図書館司書と連携し学習に必要な図書を充実させる。 ②課題の発見や解決のために必要な資料等を、市立図書館や地域学校園内の学校から借りるなどして連携を図り、充実した学習ができるようにする。 ③日常的かつ効果的な端末の活用の仕方を研修するなどして授業で生かせるようにする。
本校の特色・	B1 児童は、友達の意見をよく聞き、話し合っている。 【数値指標】 「わたしは、友達の意見を	①国語の教科書に沿った進め方で、発達段階に応じた正しい話し方・聞き方の定	B	【達成状況】 B1については、児童の肯定的回答が90.1%で、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①国語を中心に適切な話し方・聞き方の定着を図るとともに各教科等で話し合う必然

課題等	よく聞き話し合っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	着を図り、国語の時間以外の生活で生かせるように意識づける。 ②教科にこだわらず、小グループでの話し合い活動やタブレットを使った意見交換をする機会を意図的に設定する。	B B	性のある場の設定を行う。 ②可能な限り、各教科で機会をとらえて、小グループでの話し合い活動の場を設ける。また、端末を使った意見交換の機会も意図的に設定する。 ③可能な限り、朝の会・帰りの会でスピーチの時間を位置づけるなどし、常時活動として言葉でやりとりをする場を設ける。
本校の特色・課題等	B2 児童は、縦割り班やグループで、協力し合って活動している。 【数値指標】 「わたしは、縦割り班やグループで協力し合って活動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①縦割り班活動の内容を事前に教師が共通理解した上で支援し、児童が活動に見通しを持って主体的に取り組めるようにする。 ②縦割り班活動の中に学び合いの活動を取り入れ、上級生の自覚とリーダー性を養う。	B B	【達成状況】 B2については、児童の肯定的回答が92.8%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①縦割り班活動の内容を事前に教師が共通理解した上で支援し、児童が活動に見通しを持って主体的に取り組めるようにする。 ②縦割り班活動の中に学び合いの活動を取り入れ、上級生の自覚とリーダー性を養う。
	B3 児童は、自分の考えや友達の考えなどの情報を整理し、考える力がついている。 【数値指標】 「児童は考える力が付いてきている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 児童はノートに自分の考えを書き込んだり、友達の考えと比較して考えたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりしている。	①自分の考えを記したり、友達の意見と比べたりしながら、自分の考えを深め、広げていくことができるノートの書き方を学ばせる。 ②授業の振り返りにおいて、考えて学んだことを確認し、どんな場面で生かしていけるかを意識できるようにさせる。 ③友達の考えを理解するためによく聞き、自分の考えを表現する言葉の使い方を学び、よりよい考えを導き出せるようにする。	B B B	【達成状況】 B3については、保護者の肯定的回答が84.7%で目標を達成ができた。 【次年度の方針】 ①児童の学びの跡が残るように、児童の発達段階に応じて、分かりやすく記録するような思考の見えるノートの書き方の指導を進めていく。 ②振り返りにおいて、「かがやくわ」を活用して、考えて学んだことを確認できるようにする。振り返りで出た児童の意見を取り上げて、具体的な場面での活用を意識させる。 ③引き続き、言葉の正しい使い方を指導し、話し言葉と書き言葉の使い分けができるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体アンケートの結果、全28の質問項目中、25項目で数値指標を超え3項目で数値指標を下回った。昨年度と比較すると数値指標を超えた項目が2つ増える結果であった。

【学校経営】

重点目標である「学びのある学校」に関連する評価項目である「A1 児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」では、保護者の肯定的回答が91.5%で数値指標を大きく上回った。学校独自の項目「B1 児童は、友達の意見をよく聞き、話し合うことができる。」は児童の肯定的回答が90.1%で、昨年度から0.8ポイント増加していることから、児童の学びに向かう姿勢はある程度確立してきていると考えられる。

「居場所のある学校」に関連する評価項目である「A17 学校は活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」では、児童の肯定的回答が91.1%で、昨年度より4.5ポイント増加し数値指標を上回った。

「A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」では、教職員の肯定的回答が90.3%で、

昨年度から 11.9 ポイント上昇した。ひき続き児童と向き合う時間を生み出すための業務改善に努めていく必要を感じる。

「A21 学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」では、保護者の肯定的回答が 71.0%と数値指標に達せず、6.3 ポイントの減少が見られた。教職員や児童の回答は、昨年度に比べて大きく上昇している。各種便りや HP 等で取り組みについて周知をするとともに、「学校で行っているもの」と「学校園で行っているもの」の区別が容易になるような手立てを講じていきたい。

【学習指導】

重点目標である「各教科の基礎・基本の定着」「思考力・活用力の育成」に関連する評価項目である「A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」については、保護者の肯定的回答が 84.8%と昨年度よりも 2.6%ポイント増加し数値指標を上回った。引き続き「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実践」や「ねらいが明確な授業、振り返り、言語活動の重視」の内容を中心に取組みを継続していきたい。宇都宮学に関わる「A9 児童は、宇都宮の良さを知っている」では、児童の肯定的回答が 87.0%で、昨年度から 10.4 ポイント増加し一定の成果が見られた。

【児童指導】

重点目標である「時と場に応じたあいさつや、相手の気持ちを考えた言葉遣いのできる児童の育成」に関連する評価項目である「A2 児童は、思いやりの心をもっている」の保護者の肯定的回答が 90%、「A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」の児童の肯定的回答が 86.7%「A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の保護者の肯定的回答が 77.5%と、いずれも数値指標を上回った。A4 については、児童の肯定的回答が 92.6%と極端に高く、保護者との意識の違いが明らかとなった。「みず台 3 つの約束」の「だれにもあいさつ」を掲げながら、教師が率先してあいさつをするとともに、「あいさつ運動」などの活動にも力を入れていきたい。

「A14 学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」の教職員の肯定的回答が 100%であるのに対して、保護者の肯定的回答が 77.3%であった。いじめ対策に組織的に取り組むとともに、学校での指導が保護者の納得に結びつくよう努めていく必要がある。

【健康（体力・保健・食・安全）】

重点目標である「自らの健康を考え、目標に向かって継続して挑戦していく児童の育成」に関連する評価項目である「A5 児童は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」については、児童の肯定的回答が 90.1%、「A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」の児童の肯定的回答が 94.9%、といずれも数値指標を上回った。

今日的課題である「A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」については、児童の肯定的回答が 82.1%で目標を達成することができているが、教職員の肯定的回答は 54.8%と低く指導者側との意識の差が見られる。関連する学習時に具体的な視点を意識できるようにしていくことが必要である。

7 学校関係者評価

（学校教育全般について）

- ・コロナ禍の中での活動は何かと制限が多いと思うが、良く工夫してやっていると思う。
- ・教職員の皆様が頑張っている様子が見とれる。
- ・校内掲示板等がにぎやかで明るい感じがした。
- ・どのクラスも明るい雰囲気です。授業されていて、いつも子どもたちを思って先生方が接してくださっていることを感じる事ができた。
- ・いじめについては、誰も見ていない場所で行っている可能性はゼロとは言えないと思う。
- ・ICT 教育について、主体的な判断や対話する習慣を身につけて、課題解決する力が必要だと考えるが、そのために体験学習や、グループワーク、グループディスカッションを中心とするような授業を引き続きお願いしたい。
- ・他人の意見を受け入れることができ、思いやりの心を持てるような子供を育ててほしい。
- ・児童が校庭の雑草取りなどの清掃を行うような活動などがあれば学校環境に対する意識も高まると考えられる。
- ・下校時は最終的に一人になることもあり、安全のための改善やシステムの強化を希望する。
- ・先生方の残業時間の多さが気になる。地域住民が手伝うことはできないのか。
- ・ボランティア感謝の手紙等が辞めた方にも届いたりして、せっかくの児童からの手紙が儀礼的なものを感じられた。
- ・教職員は校長を中心にまとまりが良好であり、児童はあいさつがよくできているという話がよく聞かれる。
- ・金銭教育をしっかり取り入れてほしい。

（マネジメントについて）

- ・教職員からの評価だけが強い傾向が身になる。教職員は努力面を評価しているのに対して、児童や保護者は結果や具体的な行動を評価していると考えられるので努力の方法や行動を見直してはどうか。
- ・児童生徒の欄のほとんどがプラスになっていてすばらしい結果だと思う。
- ・マネジメントは良好な結果であり、今後もよい評価が得られるよう努力を期待する。
- ・地域住民についてはコロナ禍で学校行事に参加する機会が減っていることがマイナスの原因の一つと考える。
- ・宇都宮のよさを保護者にもっと知ってもらいたい。
- ・評価が低いものは積極的に改善に取り組んでももらいたい。
- ・評価書の記入の仕方が分かりづらかった。

（情報発信について）

- ・地区市民センターでは、学校だよりを掲示することが可能である。

- ・情報発信にSNSを活用してはどうか。
- ・情報発信に各自治会の掲示板を利用したらどうか。
- ・回覧通知等がカラーだと見やすい。
- ・将来的に学校活動の様子が映像（動画）で伝わるようになってよいと考える。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・本年度のアンケート結果及び方針については一定の理解を得てきたと考えられる。今後、学校での実践内容とマネジメント項目の対応についての周知啓発等を進めるとともに、評価対象者以外の評価を高めることや、対象者間のギャップを減らしていくことを進めさらなる改善を図っていききたい。
- ・感染症対策を長期的なものと想定し、基本的な感染対策が通常・日常的なものと考え、変化していく情勢に対応をしながら教育活動を実施していく。その際に、本校・本地域で培われてきた教育活動の意義の本質部分を持続していけるよう内容を検討するとともに、制限のある中でも学び方のスタイルを工夫し、学校重点目標や児童の実態に合わせて改善を重ねていききたい。
- ・「心を育む時間」「みず台3つの約束」を柱として、児童にとって居場所のある学校になるよう指導していく。その中でも特に、児童が進んであいさつができるように、教職員の積極的な働きかけや、あいさつ運動等の機会を通して意識を高めていけりようにする。
- ・定期的にアンケートを実施したり児童の言動を観察したりすることでいじめの未然防止と早期発見に努めるとともに、いじめゼロ集会や人権週間の機会を活用し、人権意識を高める指導を継続していく。
- ・本校伝統の縦割りグループでの体験活動である「なかよし瑞穂野」を通し、異年齢集団の中で異なる立場や考えを受け入れ、思いやりや協力の心を育むとともに、地域の人々への感謝の気持ちを持たせ、自分が地域にできることを考える機会を設ける。
- ・学習指導においては、引き続き授業時にペア学習やグループ学習等、学び合う場面を設定するなどし、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の研究を進め、既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり、「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりし、学力の向上を図る。特に、今回整備された一人一台端末の積極的・効果的な活用を推進し、探究的な学びや社会とつながる協働的な学びを進めていく。
- ・評価項目に加わって2年目の「持続可能な社会」「宇都宮のよさ」等の内容については、昨年度と比較して理解が進んだと考えられが、引き続き、学校での取組みを児童・保護者・地域に周知するとともに、教育活動の中での効果的な位置づけを図り工夫改善に努めていく。
- ・コロナ感染症拡大の影響を受けて縮小を余儀なくされた行事等により減ってしまった情報発信量を補うために、学校ホームページや学校だよりを軸に効果的に内容を伝える手段を検討し、学校の取り組みや児童の様子を可能な限り発信していく。